

2025 年度 A O 選抜 文学部 国際コミュニケーション学域
「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・朝鮮語）」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際コミュニケーション学域	36	24	18

2. 第一次選考＜ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等＞

(1) 評価ポイント

本学域の選考に提出されたエントリーシートと志望理由書では、総じて、英語に対する積極的な取り組みが強調されていました。短期あるいは長期にわたって英語圏で生活をした経験のある出願者も、数多く見受けられました。したがって、可否の判断においては、海外での生活や外国人との交流を通じて、その国の言語や文化をどれだけ深く学び、どのような取り組みにつながったかが具体的に記されているものを高く評価しました。また、海外経験がない受験者であっても、学習に対する強い意欲と、努力を重ねて成果を上げてきたことが明確であれば高く評価をしました。

上記以外の判断基準として重視した点は、第一に、高校時代の学習や活動、学問的な探究心が明確に表現されているかどうかということです。第二に、本学域が提供する学びと本人の希望との関連が自分の言葉で説明され、不一致がないかどうかということを確認に検討します。入学試験の要項や本学域のホームページを通じて、本学域の特徴を把握するとよいでしょう。第三に、高校での学習以外の活動経験としては、海外留学の経験がなくても、言語や文化、国際社会の課題に対する意識が見られる場合は高く評価しています。

(2) 解答状況

今年度は昨年度に比べて多くの出願があり、志望理由書の内容も一定の水準を満たしたもののばかりでした。しかし、本学域が提供する学びと本人が学生生活に期待することのあいだにズレがみられる場合や、それらと将来の展望に関する記述が一貫していない場合には、不幸なミスマッチを避けるためにこの段階で不合格としました。本学域で何を探究し、どんな挑戦をしたいのかを明確に論じた文章が求められます。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

第二次選考に進んだ受験生は、英語に関する能力や意欲は学域が期待する水準をおおむねクリアしていることから、面接では高校時代の生活、本学域を志望した理由と意欲、大学入学後の学びと将来の展望について、自分の言葉でしっかりと説明できるかどうかを確認しました。学問的な関心は、将来のキャリアに直接結びつく場合もあれば、そうでない場合もありますが、本学域で探究できる学問テーマへの意欲が伝わってくるものを評価しました。

(2) 解答状況

ほとんどの受験生は、面接に向けて十分に準備してきたことが伝わってきました。学域の特徴をしっかりと調べたうえで、本学域を志望する理由や入学後に学びたい内容に関して、自分の言葉で明確に答えることができた受験生が高い評価を受けました。その一方で、本学域が提供する科目と本人の希望とが十分に合致しない・一貫性を欠いているような応答も見られました。

(3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

面接では、高校時代に力を入れたこと、本学域を志望した理由、大学入学後の学びと将来の展望について質問しました。さらに、高校での課外活動や留学体験、それらを通して得た知見についても質問しました。

(4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

学問への積極的な姿勢や真剣さ、思考力や分析力、目的意識の明確さ、加えて大学生活や将来に対するビジョンを持ち、それを自分の言葉で適切に表現できるかどうかを確認します。併せて、本学域が提供する学びと受験生の期待との間にミスマッチがないかについても、あらためて評価します。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

本学域を志望する多くの受験生が、短期あるいは長期にわたる留学や海外訪問、英語話者との交流といった経験を持っています。受験生に対しては、英語力が向上した・外国人と触れ合ったというエピソードだけでなく、その経験から何を学んだのかという深い内省を期待します。また、面接官の質問を理解し、明確に応答できるかどうかにも評価のポイントとなります。

以上